景況レポート

（11月分・情報連絡員60名）

悪化割合が減少し、全体景況DI値が上昇

【概況（全体）】

11月分の県内景況は、前年同月と比較して景況が「好転」したとする向きが8.3%（前回調査5.0%）、「悪化」が55.0%（同68.3%）で、業界全体のDI値は－46.7となり、前月調査との比較では16.6ポイント上回った。

全国の景況DI値は前月調査と比較して0.5ポイント下回っており、新型コロナウイルスの感染者数が急増した近畿ブロックにおける景況DI値の大幅な下降が影響した。一方で、東北・北海道ブロックの景況DI値は前月調査と比較して0.7ポイント上回る結果となった。

【業界別の状況】

新型コロナウイルスの影響が続いており、特に製造業における悪化割合が依然として大きい状況となっている。

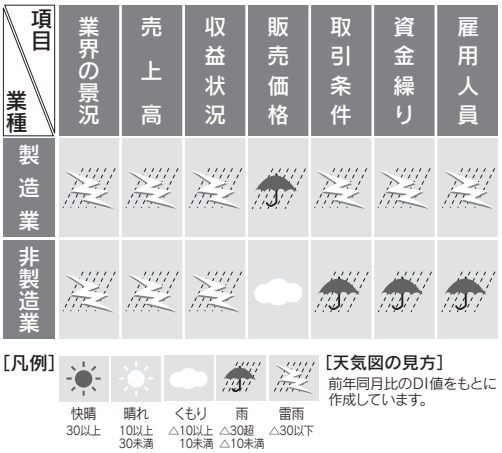
一方、非製造業では、Go Toキャンペーン等の効果により、悪化割合が小さくなったため、景況DI値が前月を大幅に上回った。

しかし、今後の先行きが見通せない業界が依然として多くあり、決して楽観視できない状況である。

＜全国及び東北・北海道ブロックとの景況DI値の比較＞

	秋田県	全　国	東北・北海道
全　体	－46.7	－54.4	－50.7
製造業	－66.7	－59.4	－54.5
非製造業	－33.4	－50.5	－48.6

＜景況天気図＞

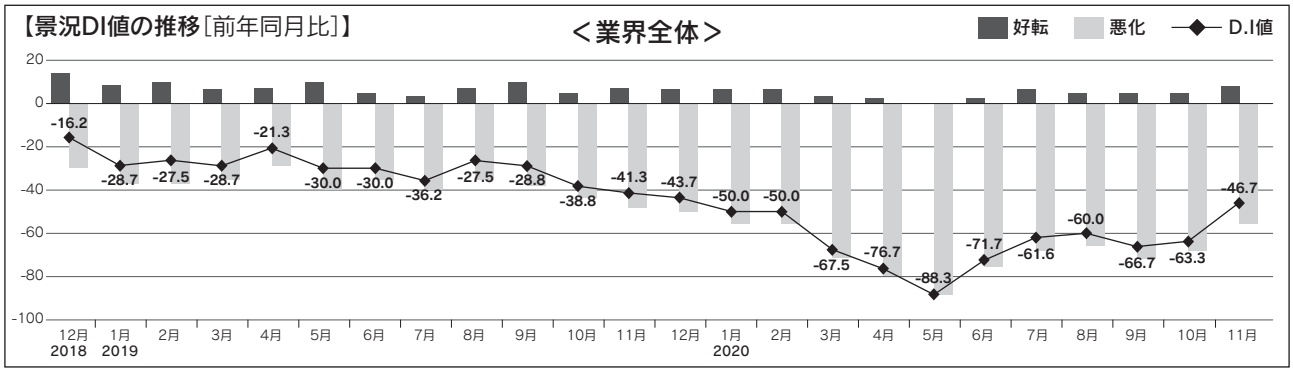


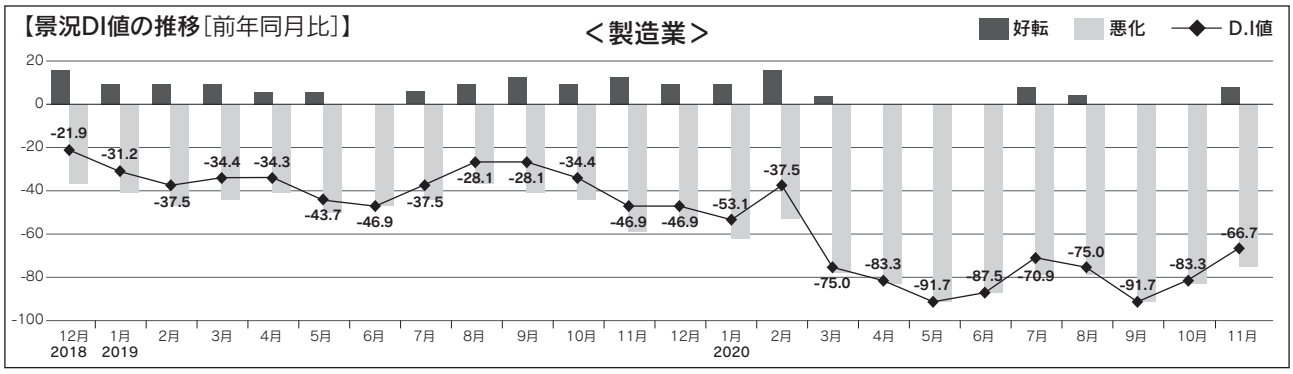
※DI値とは、Diffusion Index（ディフュージョン・インデックス）の略で、増加（好転）したとする企業割合から、減少（悪化）したとする企業割合を差し引いた値です。

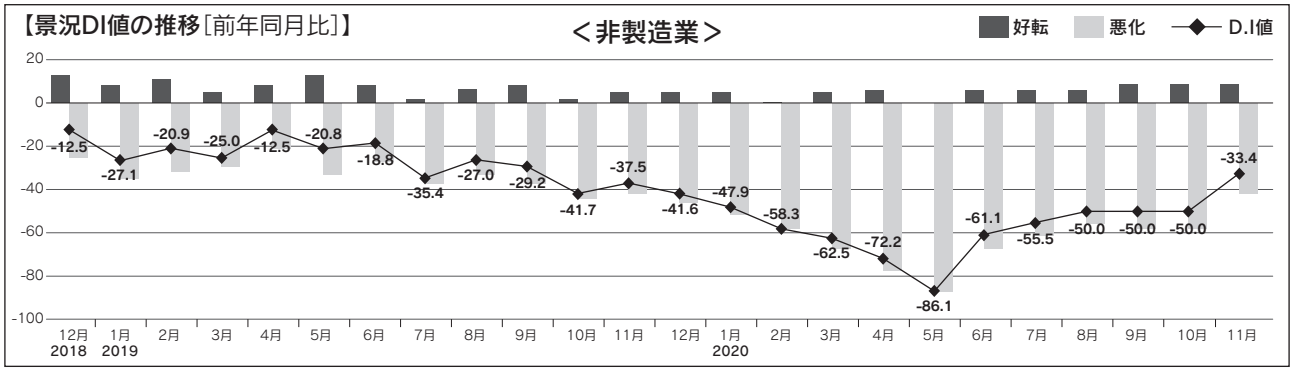
【業界の声】 ～製造業～

（回答数：24名　回答率：100%）

食料品（パン）	新型コロナウイルスの影響により、食パン、菓子パンともに苦戦が続いており、特にスーパー等における小売は前年割れが続いている。
食料品（精穀・製粉）	Go Toトラベルや各種地域商品券等の効果により、徐々に回復する傾向がみられた。例年12月は繁忙期となるが、今年は「巣ごもり」が予想され、年末年始の帰省動向が不透明であるため、生産計画を立てるのが難しい状況である。
繊維工業（ニット）	医療用ガウンの大量受注も先月で終わり、少量の受注を継続している組合員もいるが、例年以上に閑散期の受注量が減少している。今後、第3波で再び緊急事態宣言が出される可能性があり、先行きが懸念される。
繊維工業（繊維）	新型コロナウイルスの影響で百貨店を中心にアパレル商品の売上が大幅減となっており、それに伴い組合員企業の受注も昨年に比べ大幅に落ち込んでいる。10月まではかろうじて医療用ガウンで凌いできたが、11月からはこの医療用ガウンの仕事も減少しておりこの分の穴埋めができていない状況にある。（中央地区）
木材・木製品（一般製材）	製品販売高は、前年同月比で20.1%減少した。新型コロナウイルスの感染拡大により、製品の注文が著しく低下している。12月～3月の見通しも不透明となっており、収益面の悪化と資金繰りへの影響も懸念される状況である。
窯業・土石製品（生コンクリート）	出荷数量は前年同月比82.8%となり、4～11月までの累計では同94.7%となった。県南地区が同54.2%と大幅な落ち込みから前年を大幅に下回った。今年度は590,000㎥（前年比93.7%）前後に落ち着くと思われる。
鉄鋼・金属（鉄鋼）	新型コロナウイルスの影響が拡大し、終息が見えない状況になっている中、工場の稼働率も依然として低いままで、非常に厳しい状況が続いている。さらに工事物件が少ないため、工事額の差し値も見受けられる様になってきている。今後、稼働率の低下に加え、安値での受注に注意が必要な状況である。
その他の製造業（漆器）	10月からの工芸館の販売アイテムの増加と、Go Toトラベル事業の観光客増加の相乗効果なのか、例年の同月期よりも大きく上回る売上高となった。一方で、県外の催事参加業者の売上は、回復にはほど遠い状況である。







【業 界 の 声】 ～非 製 造 業～

（回答数：36名　回答率：100%）

卸売業（商業卸）	新型コロナウイルスによる影響で仕入単価が通常の3倍になっている商品があり、販売価格の交渉に苦労している。需要の停滞が続いており経営環境は厳しさを増している感がある。
卸売業（古紙）	回収量が7,220kgとなり、前年同月比で1.5%増加した。ダンボールが13%程度増加しており、ネット通販が要因とみられる。
小売業（自動車）	11月の新車販売台数は、登録自動車1,813台（前年同月比103.6%）、軽自動車1,736台（同100.3%）、合計3,549台（同102.0%）であった。
小売業（石油）	ガソリンの小売価格は1ℓあたり129円30銭で前月比10銭値を上げた。軽油は112円70銭で前月比10銭、配達灯油18ℓは1,380円で前月比11円それぞれ値を下げた。
小売業（花卉）	大都市での新型コロナウイルス感染拡大により、仕入れ値の高値が続いていたが、大都市での需要が落ち込んだ影響で地方の市場に多くの花が流れてきている。しかし、地方の需要も上向きではないので、せりに出る品物は買いたたかれ、安値となっている。
商店街	一部に持ち直しの動きがみられるが、全体として厳しい状況が続いている。（秋田市）
	Go Toキャンペーンの影響で飲食店は以前より客足が戻ってきている様だが、まだまだ非常に厳しい経営状態にある。一般小売店は、緊急支援対象とならなかった店舗も多く、春以降客数、売上ともに大幅減少のまま、師走を迎えることとなった。（大館市）
サービス業（タクシー）	全県の運行回数（対前年同月比）は70.4%、運送収入（同）は65.5%となった。Go Toキャンペーンにより観光客の入り込みがみられたが、下旬に秋田市の繁華街で発生したクラスターにより、新型コロナウイルス感染拡大への懸念が一層高まり、利用が回復しなかった。
建設業（電気工事）	景況の回復が落ち着き、売上自体は前年売り上げより悪化している一方で増改築工事の受注件数が増加している。（県南地区）
運輸業（トラック）	4～8月まで長距離の荷動きが悪かったが、輸送斡旋については4～11月までの合計でようやく前年超えとなった。地元企業からの発注が多かったため、軽油の使用量が今年度最大量となった。（中央地区）